

# 上野彦馬とその時代

姫野順一

## ⑪ 写真師ブルガーの功績

幕末から明治初めにかけて上野彦馬の風景写真の技法に転換をもたらしたのは、イタリヤ系イギリス人フェリックス・ベアトと、オーストリア人ハンガリア帝国東アジア遠征隊の随行写真師ヴィルヘルム・ブルガーであった。その技法とは、野外撮影に便利なドライ・コロジオン・プロセス(湿乾板法)である。これは感光材のコロジオン溶液を塗布した状態で、露光と現像を15分以内に処理しなければならなかった従来のコロジオン・プロセス(湿板法)の改良版である。

コロジオン・プロセスはイギリスのフレデリック・スコット・アーチャーにより1848年に発明され、初期の真鍮板に感光させる一枚きりのダゲレオタイプ(銀板写真)に変わるものであった。透過性のあるガラスを用いるため紙焼きによる複製が可能となった。湿乾板法というのは、これにタンニンなどを塗布することでコロジオン溶液の乾燥を防ぎ、露光時間を長くすることで超高精細な野外撮影を可能とした。感度が高く短い露光で撮影できるゼラチン乾板の前史である。

### ① 申し立てをする役人

ドイツ語のキャプションは「役人の申し立ての仕方」と解説している。紋付き羽織、はかまを着けた正装で、左手に刀を持ち、腰を折った武士の申し立ての演出写真である。腰をかかめる日本人のあいさつの仕方は、外国人には珍しく思われたようである。背景の洋風の手すりには上野彦馬撮影局に新設されたばかりの大スタジオの備品である。ちなみにステレオ写真は2眼のステレオカメラで撮影しなければ視差を利用した3D画像は再現できない。ブルガーは単一写真の複製でステレオカードに仕立てているため、ステレオスコープで覗いても3Dの視覚は得られない。

### ② 大浦天主堂と長崎港

キャプションには「長崎の風景」とある。大浦天主堂の背後から長崎港と出島を撮影している

### ③ 取りをする力士

これも単一写真の複製である。創建時の身廊背面(祭壇部)の外壁が半円であることから、この時期正面両脇の小尖塔がすでに失われていることが分かる。右の大きな屋根は妙行寺。大浦川の河口には角地の大浦11番の建物が見える。

### ④ 東山手から大浦天主堂を望む

そのうち彦馬の撮影局を借用して撮られた高精細のガラス原板写真は紙焼きされ、その一部は「中国と日本」のシリーズとしてステレオカードで販売された。以下幾枚かを紹介する。

### ⑤ 女性の集合写真

そのうち彦馬の撮影局を借用して撮られた高精細のガラス原板写真は紙焼きされ、その一部は「中国と日本」のシリーズとしてステレオカードで販売された。以下幾枚かを紹介する。

### ⑥ 髪飾りを着けた娘

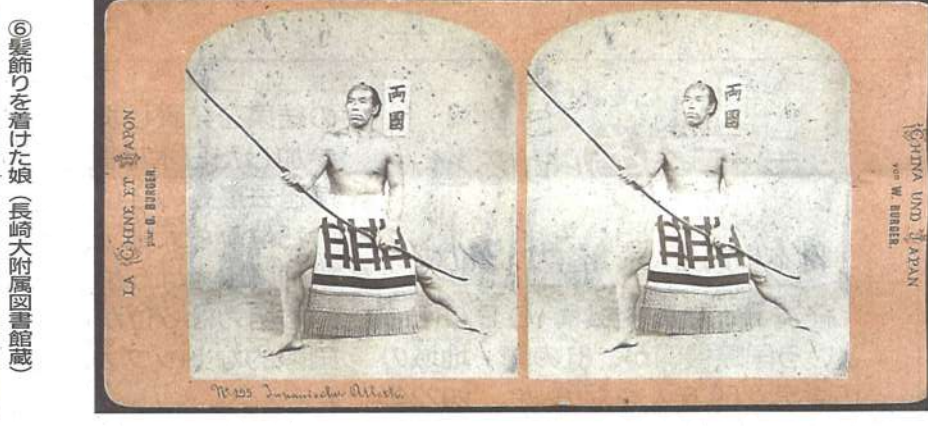
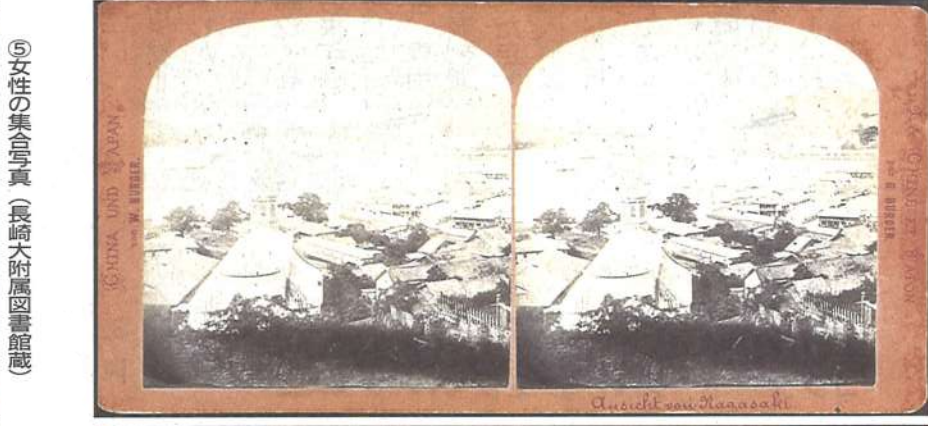
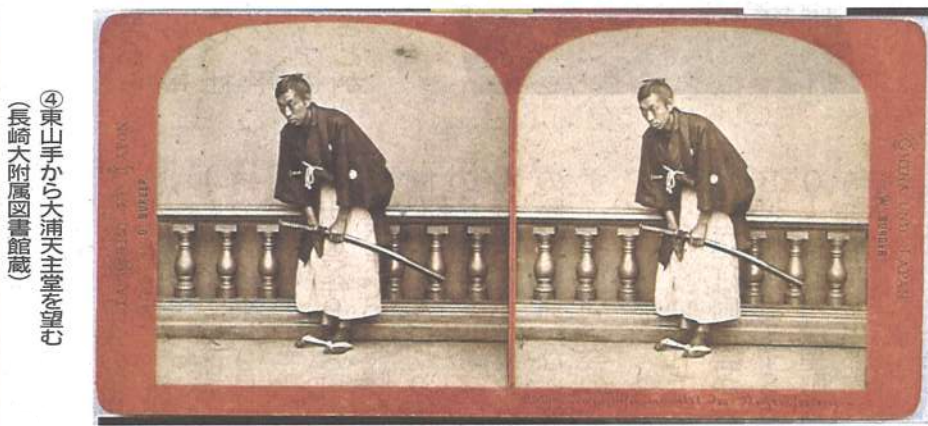
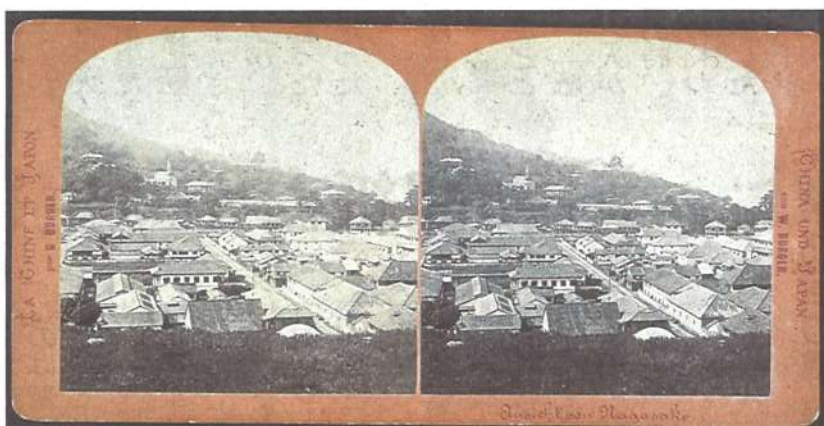
キャプションには「上品な婦人と書かれているが、若い娘である。丸鬘風の割唐子で、髪に花簪とこうがい(鹿子縮)をかぶせている。振り袖で襦袢の襟元を広く見せて素足にげたを履き、右手に文箱をかさす。菱形敷石の床は後藤象一郎らが撮影されたスタジオと同じである。

### ⑦ 取りをする力士

これも単一写真の複製である。創建時の身廊背面(祭壇部)の外壁が半円であることから、この時期正面両脇の小尖塔がすでに失われていることが分かる。右の大きな屋根は妙行寺。大浦川の河口には角地の大浦11番の建物が見える。

### ⑧ 髪飾りを着けた娘

キャプションには「上品な婦人と書かれているが、若い娘である。丸鬘風の割唐子で、髪に花簪とこうがい(鹿子縮)をかぶせている。振り袖で襦袢の襟元を広く見せて素足にげたを履き、右手に文箱をかさす。菱形敷石の床は後藤象一郎らが撮影されたスタジオと同じである。



る。これも単一写真の複製である。創建時の身廊背面(祭壇部)の外壁が半円であることから、この時期正面両脇の小尖塔がすでに失われていることが分かる。右の大きな屋根は妙行寺。大浦川の河口には角地の大浦11番の建物が見える。

③ 取りをする力士  
キャプションには「日本人アスリート」とある。長崎出身の力士面国による弓取り式の演出写真である。「西国」のしこ名は長崎出身力士により世襲された。

④ 東山手から大浦天主堂を望む  
キャプションでは「長崎の風景」と説明。背後の丘の上には「よんご松」と呼ばれたグラバー邸内の一本松とグラバー住宅が見える。大浦外国人居留地の建物群にはまだ活気がうかがえる。

⑤ 女性の集合写真  
キャプションには「日本人たち」とある。彦馬の大スタジオで撮影された長崎の女性たちである。一人一人の視線はベアト仕込みで多方向を向いている。若い女性を撮影したいというブルガーとモーザーの要望を聞き入れて、彦馬は知り合いの女性をモデルにしたように思われる。

⑥ 髪飾りを着けた娘  
キャプションには「上品な婦人」と書かれているが、若い娘である。丸鬘風の割唐子で、髪に花簪とこうがい(鹿子縮)をかぶせている。振り袖で襦袢の襟元を広く見せて素足にげたを履き、右手に文箱をかさす。菱形敷石の床は後藤象一郎らが撮影されたスタジオと同じである。

彦馬はその後、明治元(1868)年ごろに大型カメラを入手し、湿乾板法で自らも高精細写真を撮影するようになる。

(長崎外国語大学長)

Ⅱ 偶数月の第3日曜付サンデーぶんかに掲載

# 超高精細な「湿乾板法」伝授